

令和元年度第2回香南市総合教育会議

1. 開催日時 令和元年10月 2日(水) 午後1時30分～
2. 開催場所 大峰の里 1階 健診室
3. 議題
 - (1) 地域と一体となり子どもを育む学校づくりについて
 - (2) 総合子育て支援センター「にこなん」の利用状況について
 - (3) マリンスポーツの推進について
 - (4) その他
4. 出席委員

教育委員	清藤 好弘
教育委員	百田 久範
教育委員	山本 美和
教育委員	中元 啓恵
教育長	入野 博
香南市長	清藤 真司
5. 説明のため出席した者の職指名

教育次長	山下 篤
学校教育課長	山本 昌伸
学校教育課指導監	細川 健次
学校教育課長補佐	門脇 佐代子
生涯学習課長補佐	国松 士晃
こども課長	前川 浩文
こども課長補佐	原 司
にこなん所長	高橋 公子
6. 事務局職員の職氏名

総務課長	北村 浩司
総務課係長	伊藤 正和
7. 傍聴者 0名
8. 議事の経過の概要
次のとおり

○北村総務課長

それでは案内の時間になりましたので、ただいまから令和元年度第2回香南市総合教育会議を始めたいと思います。最初に市長の方から。

○清藤市長

はい、皆さんお疲れ様でございます。今日は2回目の総合教育会議ということでございますが、外もぐずぐずとした天気でございますが、本日もお手元の資料の議事にそって協議をしていけたらと思いますのでどうぞよろしくお願いをいたします。

○北村総務課長

ありがとうございます。それでは議事に入りたいと思います。個別の議事が3つ、その他が1つとなっております。それでは、まず最初に学校教育課の地域と一体となり子どもを育む学校づくりについての説明をお願いします。

○山本教育課長

それでは学校教育課からは本年度の教育委員会の重点取り組みのひとつに書かれています地域と一体となり子どもを育む学校づくりについてご説明をいたします。子どもたちが豊かな成長を遂げるためには学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、社会全体で協力しあえる体制をつくる事が、地域と一体となり子どもを育む学校づくりの実現には必要不可欠と考えております。地域とともにある学校を作る事で教育の質を向上させ、学校が抱える教育課題が少しでも解決できるよう教育委員会が各学校に取り組みを呼びかけ、さらに保護者・地域住民にも支援をよびかける事で、学校と地域が一体となった教育の実現を目指していきます。このような目標を実現させるため、コミュニティスクールの制度と地域・学校協同本部事業を活用し、学校と保護者、地域が連携・共同できる体制をつくり、それぞれの地域の特色をいかした学校づくりを行っていきます。

それでは、まず最初にコミュニティスクールについてご説明します。資料6ページをご覧ください。コミュニティスクールとは学校の運営について協議する機関である学校運営協議会を設営している学校の事をコミュニティスクールといいます。学校運営協議会では保護者や地域住民の代表が委員となり、学校の教育方針や教育活動の実践について承認したり意見を述べたりすることで、保護者・地域住民も学校運営に関わりを持つ。一緒になって子どもたちの豊かな成長を支えてゆく、地域とともにある学校を作っていきます。また、地域ならではの創意や工夫を教育活動に生かすことで特色ある学校づくりも生まれてゆきます。学校運営協議会で協議される内容としましては、校長が作成する教育運営の基本方針について承認すること、このことは必修になっています。その他学校運営について教育委員会や校長に意見を述べること、教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べるができるようになっていきます。こうした仕組みを分かりやすくしたものがコミュニティスクール、資料1ページにある図です。図の右側にある学校から中央の学校運営協議会に学校運営の基本方針、学校運営、教育活動について校長から説明があり、それについて委員が熟議した後、承認や意見を学校に返すようにしています。この時、教育委員会の役割としましては協議会の設置、委員の任命、協議会の適正な運営を確保するなど学校運営協議会や学校を支援するようになっていきます。資料2ページをご覧ください。コミュニティスクール制度の現状につきましては県内には平成30年4月現在19の教育委員会で49校が導入をしております。香南市では本年4月で赤岡小学

校・野市小学校・赤岡中学校の3校が導入をしております。他の8校につきましては令和3年4月から全ての学校がスタートするよう今年・来年を準備の期間として取り組んでいます。

次に学校の取り組みとして赤岡中学校・野市小学校の学校協議会で協議された項目を挙げています。まず最初に赤岡中学校の取り組みでは、年度初めの会では授業参観の後、学校の現状・子どもたちの様子について校長から委員に説明を行いました。その後前年度末に承認された学校経営全体計画・学校経営方針を確認し、本年度の研究に関すること、基礎学力の定着と基礎学力の向上の取り組み、年間行事予定等について提案を行い、意見や承認をいただくようにしました。委員からは説明を受けた内容について特に異論はなく承認されたということでした。年度途中の会では計画の進捗状況、子どもたちや学校の現状・課題について委員に伝えています。年度末には学校評価結果について協議した後、次年度の学校経営全体計画、学校経営方針について承認をいただき、年間行事予定を委員に提議しています。野市小学校の学校運営協議会では年間6回協議会を開催しております。4月当初は経営ビジョンや学校経営計画の承認、1学期末にはこれまでの子ども達の様子や学校内の異常、生活アンケートの集計結果についての報告、2学期中旬は子どもの様子や学校内の現状についての報告、2学期末は学校評価アンケートの集計結果の報告、3学期中旬は学校評価結果の報告、3学期末は1年間の振り返りと次年度に向けての提案を行い、運営協議会では承認をいただいております。このように学校経営上の教育計画全般、様々な取り組みについて協議し、その結果について承認をいただくことで保護者や地域住民が学校運営の一端に関わっております。成果としましては地域、保護者には学校運営や共同本部等がずっと良い状態で続いていくことを願っているところがあるようです。学校運営協議会があることで管理職が異動しても学校が継続されていく、このことはありがたいという意見を出されています。また地域の方は学校と違った視点を持っています。その方からのアドバイスを受け入れることで、地域貢献型の取り組みが学校としてできるようになっている、このことも成果として挙げられています。課題としましては、初任者の退職があるようだが学校全体で支えていく取り組みをつくったらどうかとか、支援を地域ボランティアにお願いする前にまずは保護者にお願いする方が先ではないかなどという意見も委員の方から出されたようです。次に地域学校協同本部についてご説明をいたします。資料3ページをご覧ください。地域学校協同本部とは学校が地域の高齢者、成人、学生、保護者、民間企業、各団体等から幅広い協力や支援を受けています。それを元に教育活動の質を高めたり、体験活動を充実させたり、時には子ども達の学びや安全を見守っていただくこと学校としては望んでいます。こうした願いを実現するため、主に学校や子ども達への支援活動を行い、その支援をまとめる組織が地域学校協同本部となっております。これ以外には学校を核とした地域づくりの輪を目指す、地域と学校が相互にパートナーとして様々な活動を行っていくことで、学校・保護者・地域住民の間のつながりを深める働きもあります。先ほど説明しましたコミュニティスクールと地域学校協同本部の違いにつきましては、コミュニティスクールつまり学校運営協議会は、学校の運営について学校の運営について委員が熟議し、学校が進む方向性や取り組みについて協議する機関であり、地域学校協同本部は保護者・地域住民・各種団体等幅広い地域ボランティアの方が学校を支援していく組織であるという違いがあります。

4ページの図にあるように地域ボランティアによる支援活動としましては、学習支援、校内環境整備・学校行事支援・子どもの安全確保や見守りなどがあり、地域コーディネーターが学校からの願いに沿ってボランティア活動をコーディネートする事で学校はずいぶん助けられています。地域学

校協同本部の現状につきましては、平成30年度で高知県内の学校で地域学校協同本部を設置する学校が242校で設置率が84.7%でした。香南市は平成30年度は7校でしたが、今年度は全ての学校が地域学校協同本部を設置し、学校と地域との連携・共同の推進に取り組んでいます。地域学校協同本部を設置する事で期待される効果としましては、子ども達にとっては専門的な知識や理論を持った地域住民と触れ合うことができる、学びや体験活動が充実することができることなどが挙げられます。また学校にとっては、地域住民の理解と協力を得て地域資源を生かした授業が進められることが挙げられます。地域にとっては、自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで生きがいや自己実現の機会や場が作られる、地域の子供達と顔見知りになるだけでなく、他の地域住民の顔と名前が一致する状況をつくることのできる、新たな地域コミュニティが作られるなどが挙げられます。

取り組み事例としましては、赤岡小学校では黒潮の子ども応援隊というものをつくり、年度はじめ・年度末の運営委員会の他、月1回の幹事会を開き、支援を行うための準備を行っています。広報活動では、応援隊通信を発行し、新たなボランティアを獲得することで地域の充実および拡大をはかっています。その結果平成30年度には登録者数述べ413名、実人数243名になっています。次に学習支援隊は放課後の加力指導、お昼の学習タイム、地域学習の講師等を行っています。環境整備隊は愛校作業に加わったり、畑を耕したり、草取りをしたり、おひなさまやこいのぼり等の文化的な行事の取り組みを行っています。黒潮っ子安全隊はあいさつ運動や交通指導、地区別集団下校、避難訓練等の指導を行っています。スポーツ健康隊は朝食づくり教室や食育体験活動等の手伝いをしたり、サッカー教室等の運動教室を開いたりしています。また6ページには夜須小中学校の取り組みも紹介をしています。特徴的な取り組みとしましてボランティアの方が卒業生にコサージュをつくったり、防災学習の支援を行ったり、地域に伝わる文化財の傳承に繋がる活動を行っています。学習補助で琴の実技指導、浴衣の着付け教室を行ったり、農作業体験活動の世話役をしたり、スポーツ指導の一部を地域が担ったり、夜須地域ならではの特色ある取り組みがされています。

7ページには佐古小学校、野市小学校、野市東小学校、吉川小学校の取り組みをまとめたものを授業支援・学習支援・生活支援・環境支援・行事支援・情報支援の6つに分けて紹介していますのでごらんください。(5)には平成30年度のボランティアの活動状況をまとめています。学校によって状況が異なり、多い少ないはありますが、香南市では1年間で述べ6194名の方が述べ日数1698日にあたりボランティアとして学校の支援に携わっていただきました。地域学校協同本部の成果としましては、たくさんの地域の方が関わることで児童のコミュニケーション能力や自尊感情が高まり、参加した生徒は真面目に机に向かうようになり、成績にも反映するなど成果が現れている。より専門的な観点からの技能指導を受け、安全に授業を行うことができ、上達したなどが挙げられています。課題としましては、保護者と一緒にできる取り組みを考え、学校・家庭・地域との繋がりをさらに深めていき、子どもたちと気軽に交流できる機会がもっと増えるように新たな行事に参加することで交流できる機会が増えればよいという意見が出されています。

9ページから12ページは赤岡小学校と赤岡中学校の資料をつけています。少し字や写真が小さく見えにくいですが、活動の様子が写真として載っていますので、これまでの説明と重ねながらご覧になってください。13ページから18ページは香南市立学校における学校支援協議会の設置等に

関する規則、香南市学校評議員に関する規則、文部科学省から出されていますので学校評議員制度と学校関係者評価についてを載せています。現在香南市では学校評議員制度による評価を行っております。また学校運営協議会でも評価を行うようになっていきます。学校評価についての文部科学省の見解としましては、それぞれの制度の導入主旨を踏まえつつ、学校や地域の実態に応じて導入することを基本として考えていますので、香南市としましては学校関係者評価を一本化するよう考えています。今後も香南市の全ての学校が地域・保護者との連携を深め、地域と一体となり子どもを育む学校づくりへと繋がっていくよう学校教育課としても支援を行っていきたいと考えています。時間が長くなりましたが、以上で子どもを育む学校づくりについての説明を終わります。

○北村総務課長

ありがとうございました。それでは質疑・ご意見等ございますでしょうか。

○清藤市長

ちょっとかまいません？コミュニティスクールは令和3年4月からほか残りの学校もやっていくという方針でやられるのですか？

○山本教育課長

そうです。香南市としまして全ての学校をコミュニティスクールの制度を活用した学校とすると。

○清藤市長

それと、地域学校協同本部の最後の説明のところで課題として出ていたのですが、「保護者と一緒にできる取り組みを」ということは、今保護者と一緒の取り組みはしていないということなんですけど、それはその地域学校協同本部に保護者が入ってどうこの機会はないわけですか？

○山本教育課長

そういうことではないですが、これは例として適切ではなかったですが。

○清藤市長

2回、そういう言葉が出てきたのでね。それは保護者も一緒に。

○山本教育課長

やっています。地域のボランティアとして保護者に入ってもらっている学校もあります。

○北村総務課長

他に何かございますでしょうか。

○百田委員

労働時間の削減という中で、協同、コミュニティスクールを立ち上げる中で、コミュニティスクールにしても協同本部にしても公務支援が入りますよね。その中で結局教員が事務局的なことになる可能性があるのもその辺を、香南市内は自分も入りますけれども、大きくなりそうだったら、コ

ーディネーターが、住民の調整もするというような事で教員の事務的な負担をなくす方法をとらなければいけないのかなと思いますね。

香我美中学校のことしかわからないけれど、保護者との交流・協力といったら愛校作業とか交通安全とかそういったのには民生委員、まちづくり協議会、スクールバスに関しても、乗るところに立ってなどやっていますので、その輪をとりながら、コーディネーター役が結構しんどい。それを学校まかせにするわけにはいかんと思います。

○清藤市長

それはどうなっています？

○山本教育課長

ボランティアの配置というか、連絡をとったりなど、学校からの情報があった時は、それは基本的にはもうコーディネーターさんにお任せをする事が基本となります。ただ、全てほりまかせというか、そういうわけにはいきませんので、当然学校内にも地域連携の担当者も配置をして、そこで学校でできること、コーディネーターさんでできることのさび分けをしながらやっていきたいと考えています。

学校側としては、他にいろんな形で地域のボランティアさんの、特に授業の補助というか、例えば調理実習とか、ミシンの裁縫とかに入って手伝っていただければ、学校としても授業が順調に進むし、担任としても助かりますので、そういうところはコーディネーターさん、学校内の地域担当者をお願いするという形にはなってくると思います。

○清藤市長

いやいや、学校内の地域担当者というか、その担当者が誰かということ。事務局的な立場ということですよ。それは学校の教員になる？

○山本教育課長

事務局的なところは教員になります。

○清藤市長

教員になる場合にそこだけかたよったらあれだから、教員の負担になるのではないかというお話です。

○山本教育課長

ある程度負担に、仕事が増えるというのはあると思うんですけど、先ほど申しましたように、授業が円滑に進んだり、そういうことを考えると、学校としては負担の軽減になるのではないかと。

○清藤市長

違う違う、ボランティアきて学校の負担の軽減になるのではなしに、コミュニティスクールとか、協同本部の事務局とか事務局長は、これは結局教員になるわけですか？どういった教員になるんですか？

○山本教育課長
教頭

○清藤市長

ほんで教頭先生がいやがるわけですか。私、前から香南市の学校の教頭先生とか校長とか言うていった事があります。平成20年ごろコミュニティスクールができるという事でおたくも考えてみませんかということで。だいたい教頭が反対します。校長はそれはいいですねえと言うけど。そういうことあるんですか？

コミュニティスクールの場合、学校運営とか教職員の任用ですよ、原則あの先生は評判が悪いきどっか、いうのはいかんですわねえ。逆にこの学校で吹奏楽部に力を入れたいと。それに合う力のあるフレッシュな先生を呼んできてもらいたいという風な教職員の任用ですわねえ。だからそんなことも一定の管理職以下やないといかんわけ？

○山本教育課長

そう。まあその学校の進む方向性に合った教員の任用を地域の方に伝えていくというのがコミュニティスクール

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

○入野教育長

このコミュニティスクール、香南市の場合は令和3年に全ての学校がこの制度を導入という事で動いているのですが、今言われるように、地域学校協同本部とかあるいは学校評議員制度とかいろんな地域の方が関わるそういう制度がたくさんございます。このコミュニティスクール制度というのが、文科省のほうで平成28年やったと思いますけどホームページのほうにでてます。これからのコミュニティスクールのありかたと総合的な推進方策で、それまで導入時期にいくつかのそういうモデル校ができて、その振り返り・検証をやってるのがこれなんですけど、それを見ますと結局コミュニティスクールを設置した学校に質問した時にどうしてそのコミュニティスクールを始めたかという事で上位の4つという事でひとつ学校を中心としたコミュニティづくりに有効と考えたから、というのが1番です。2番目が学校支援活動の活性化に有効と考えたから、3番目が学校改善に有効と考えたから、4番目が教職員の意識改革に有効と考えたから、この4つがトップの理由です。

その結果どうなったかという成果ですよ。この上位の2つが学校と地域が情報を共有するようになった、2番目が地域が学校に協力的になった、これが成果という事が出ています。一方で課題として挙げられてるのが一般教職員に対する関心が低い、管理職だけが分かってやりゆという姿が見えますね。それから学校運営協議会の存在や活動があまり知られてない、本来だったら保護者・地域を巻き込んでの取り組みですけどこれが今一つだったというのが2番目にきてるんですよ。それから今出ているように会議の日程調整準備に苦勞する、これ様々なところからきているので、関わる人を集めるのに苦勞すると。それから4つめが管理職や担当教職員の負担が大きいというの

がやっぱり出ていますので、これらがこれから先の課題であり、乗り越えていかなければならないところだと思います。

一方で本市の抱えている取り組みのひとつである小中一貫教育だとか連携についてもこの中で触れられております。結局中学校区の複数の学校が連携した支援体制をやっていくについては、このコミュニティスクールの制度と組み合わせ、大きな成果を上げた例が非常に多いと書いています。結局この取り組みによって保護者・地域・住民と教職員が、学校の教育目標、学校・子どもが抱える課題解決策を共有して組織的継続を、継続的な取り組みをとることが多かったという風なことも書かれています。

それからもうひとつは先ほど言いました様々な地域の人に関わる制度がありますね。特にコミュニティスクールを評価しながら次の運営をどうしていくか、そこへ地域の人や保護者や関わっている委員さんが色んな意見を言えるわけですけど、一方で評議員制度というのが同じように評価してきた制度がございます。これらとの関わりはどんなになりますかというところで、新しいコミュニティスクールをやるにあたって導入した学校では、今までやったこんな制度があるのに新たなこういうコミュニティスクールなどやる必要があるのかという声もあったようです。だからどっちも区別がよくわからないということとか。それからこういう制度に関わっている地域の名誉職の方、評議員であるとか運営協議委員になるとかそんなことが多いため、全部地域からの意見を聞いて、地域の考え方というよりも、一部の方のご意見が強くてなかなか全体としての動きになっていないことも多かったというような事も出ています。ここに書かれております。

ただ、コミュニティスクールを導入するにあたって地域の人々や保護者に対する説明責任の意識は向上したと、地域の人々や保護者の理解・協力を得た風通しの良い学校運営と、次のアクションとして評議員制度というのが次はこうしてくださいよ、直してくださいよという意見が出るがですけど、次のアクションのアイデアを得るにはコミュニティスクールの制度は良いというような事が書かれてあります。書かれてあるというか振り返りが出ていますね。最終的にコミュニティスクールの総合的な、今後どうしたらよいのか、結局なぜコミュニティスクールとしてしていく必要があるのか、香南市もこれからこれに移っていくわけですけど、この制度がどうして必要があるのか、どんなメリットがあって、これを入れることによって、子どもたちがどう変わっていくか、教育委員会や学校が動くための糸口というのが、これは結局共感を得るということで関係者が熟議を重ねて、仕組みの導入によって学校が変わり、学校が変わっていくという成功体験を積み重ねていくことが重要であるということに結んであります。

今日も午前中ある学校へ行ったんですけども、学校によって非常に取り組みに波があるんですけども、非常に学校に課題があつて、問題行動が大きくなってくる一番の原因は信頼関係が壊れることながですよ。結局、児童・生徒と先生、あるいは学校と保護者、学校と地域とが、この信頼関係が構築されることが学校の取り組みの中で大事なことで、コミュニティスクール制度は地域や保護者と信頼関係を構築するためのものでなければならないということを今後推進していく時に学校長なりにしっかりと説明して、そこを校長は腹に入れて、そこから各教職員が確固とした信頼関係を構築して、子どもたちが前向きになる。地域も保護者も学校に対して協力的になって課題に対して一緒になってやっていきましょうというところが一番大事な視点じゃないかなというのが文科省の振り返りを読んで一番感じたところでもあります。

○北村総務課長

ありがとうございました。他にございませんか。

○中元委員

この運営協議会とコミュニティスクールと学校評議員会の内容、この2ページ、3ページに書いてある学校の取り組みの内容がほぼ類似しているというか重なっている気がするのですが、まったく違う組織の中で同じことを2回、3回やることで、より共感を得る、信頼関係を構築するので成果が大きいというような解釈ですか？

○入野教育長

学校評議員制度というのは、先にスタートをしているわけです。でいて学校の外部評価、もちろん自分達でも学期の終わりとかに振り返って自己評価してるわけですが、外部から見た評価というのが学校改善に大事だということで、評議員制度が導入されましたけれども、今言いましたように評議員制度というのは一定外部からの評価をして、意見を言ったりとかいうようなことですが、その次のアクションに繋がるような動きのところは評議員制度ではなかったわけです。学校の運営というのは学校だけが意見を聞いて学校だけの思いで作っていく時代ではないと、そこへ地域の方のそういうアイデアなり、運営に関しても意見をもらうという制度ということでこのコミュニティスクール制度というのが導入されてきたわけです。そこでももちろん新しいアイデアを出すには評価もしなければならないので、それで評議員制度でも評価をし、この中でも評価をしなければならないという風になっているんですよ。ところが二つで評価をするというのが、まあ言ってみたら同じことをするわけで、二度手間です。今の制度の中では文科省もそこは上手に組み入れて、コミュニティスクールの中で評価をするという事を、評議員制度を取り込んで、これ県とかに聞いてもスタイルは個々の地域で考えてくれと。言ったら国の方も二つの制度を整理しきってないがですよ。一方まだコミュニティスクール制度を導入しない地域があったら、評議員制度を残しておかなければいかんわけなので、二つの制度がありますけど、新しくコミュニティスクール制度ができたところは、それを包括するような評価制度にしてもかまんということを言っているんですよ。だから恐らく本市がコミュニティスクール制度を導入していった折には、だぶって評価をやるというのは手間も無駄ですので、一定その中へ評議員制度を包括したり、あるいはコミュニティスクール制度の中に一部評議員制度を設ける、そういう風な形も考えられる。今、そのところが説明しても非常に分かりにくいところなんですよ。

○清藤市長

評議員というのは評価をするけど、悪くいえば言いつばなしで終わる。だからそうではなしに地域とかの意見を聞いたり、力を借りたり。保護者でもあるし、地域の人でもあるし、地域の中の学校という事をうまく利用すれば、色んな鬼に金棒の金棒になる。色んな助太刀というか、そういうものが出てくるだろうと。うまく利用できなければ教頭も事務局もただの負担だと。そこでせつかく作ったけど生かしているところと生かしてないところがある。こういう現実ですよ。

○山本教育課長

学校評価につきましては、香南市の学校では、評議員の方、評価をする方を運営協議会の中の一部に持ってくる。学校運営協議会は15名以内と規則でなっていますので、その中の15名のうち、

例えば6名とかで学校評価を行うというか、案をつくるというわけですね。実際評価をして案をつかって、そのできた案を学校運営協議会15名に下ろすと。学校運営協議会で年間一回は評価をすると規則の方で決まっていますので、一部のことで評価しただけじゃなくて、案をつくったものを全体に下ろして、そこで学校評価、これでよろしいかという案をもんでもらうということですね。

それから、評議員という形で、一部ですね運営協議会の中に評議員制度そのものを置いておいて、全体で評価すると。それが実際香南市内の学校で行われています。

○北村総務課長

よろしいでしょうか。

○中元委員

はい。

○百田委員

8ページが一番下の民生委員という事で、学校全土・地域の子どもたちを支えているということで、ある校長が言ってくれたのが、民生委員さんがしっかりと守秘義務があるので、不登校の家庭の子の様子がおかしいというような件も家庭に聞けるので助かってますという事は言われました。その辺も含めて、今市長を悩ませますけど、その辺もしっかり子どもを支えるという事で共にやっていかなければならないとは思っています。

○山本教育課長

その一番下のところで、いくつかの学校を意見という形で載せておりますので、これが全て当てはまるというわけではございません。例として適切かどうかだったかということにもなってくるわけですが、やはり地域の温度差というのはあると思います。地域によっては民生委員全員が関わっていただいて、実際に活動していただいている学校もありますし、学校がどういう形で下ろしているかですね、民生委員さんでしたら民生委員さんの中にはこういう活動をしている事を知らないというような方もおいでるかもしれないので、こういう風な感想文が出てしまっているのではないかなと。これが全てではないということです。

○北村総務課長

よろしいでしょうか。

○山本委員

教育関係者とか保護者以外には学校の中に入って地域として学校を支え、子ども達の健全な成長を見守っていく、この見守り機能もすごく大事なことで、求められていることだと思うんですけど、そういう人たちが学校の中に入って………(不明)

○山本教育課長

例えば、運営協議会につきましては、これは会を行って、報酬という形で出ております。当然これで守秘義務をかたっておりますので、運営協議会の委員さんについては特に問題ありません。た

だ、地域学校協同本部のボランティアの方には、その守秘義務というのかかかってないです。ボランティアですので報酬という形は出ておりません。そこはやっぱり学校としては当然知りえた情報は学校外には出していかないということで運営をしている。特によく言われるのが、放課後の丸付けです。おっしゃられるようにそれを危惧する人もいます。ボランティアの方にも丸付けのお願いができないでしょうかという時に、そういう風なことがあるので私は遠慮させていただくというようにしています。

○北村総務課長

それではひとつめの議題についてはこれでよろしいでしょうか。それでは次の議事に移ります。こども課の方から説明をお願いします。

○前川こども課長

それでは総合子育て支援センターにこなんの利用状況についてご報告させていただきます。7月に開所しましてから3ヶ月がたちましたが、2ヶ月分についてご報告させていただきます。1番の利用状況について、7月の児童数618人、保護者数584人、(18)人は男性の保護者の数です。7月が計1202人です。8月児童数が445人、保護者数417人、(27)人は男性の保護者です。8月の計が862人です。真ん中の段の出張ひろばの段をご覧ください。7月から9月の出張ひろばの実績です。つながれ広場が7月34人、8月20人で計54人。あのね広場が7月45人、8月18人で計63人。すくすく広場が7月17人、8月6人の計23人。あつたか広場7月2人、8月2人の計4人です。また上段の表をご覧ください。出張ひろばを含めた利用総数として7月で1300人、8月で908人、7月8月の2カ月で計2208人の方の利用がありました。そして下段の表をご覧ください。病後児保育施設の利用実績です。病後児保育施設の利用に伴う登録者数、7月6件、8月5件、計11件です。そして利用者数が7月2人、8月2人の計4人です。利用時の主な症状については記載のとおりとなっています。

2ページをご覧ください。相談件数および相談内容について記載されております。7月は30件、8月は17件で、それぞれ主な相談内容ですけど、子どもの発育・発達、食事、遊び、母乳、母の体調などの相談がっております。そして今後予定している連携事業としましては、主に健康対策課・福祉事務所になりますけど、みるくらぶ、育児相談、栄養相談、パパママ教室等を行っていく予定です。10月からの予定については、A3の予定表をご覧ください。また見ていただきたいと思います。次、利用者の声についてです。赤ちゃんルームと広場が分かれているので、安心して遊ぶことができます。また家で子どもといるより、期限よく遊んでくれるので助かってます。木の香りがして温かみがあっていいですねとかここなら僕も来れます。ランチルームがあるのでここで食べてから帰ると家に帰って昼寝になるので、生活リズムができてとっても助かります等があります。8番目になりますけども、これ市外の方の利用者ですけど、香南市は、こんなステキな施設ができていいですねなどの意見をいただいております。現在のところ、要望事項としては特には聞いておりません。

3ページは令和元年度の利用者数の推計見込みを書いております。5つの子育て支援センターですけど、4月5月6月の計で1949人の方に利用いただいております。そしてにこなんでの出張広場も含め、実績208人と、4月から6月の実績1949人、その後の利用者数を800人と見込んだ場合に、今年度の利用者数の推計としましては9757人になるのではないかという見込みを

立てております。真ん中の表は平成28年、29年、30年度の実績となっております。現在の課題および検討事項につきましては、勤務日が週4日や週3日で全員がそろう日が週のうち金曜日しかない状態で、全員で確認したい職員会が金曜日にしかとれない。また利用者がいない時間帯に清掃やおもちゃの消毒など職員総出で行っても16時までかかり、カンファレンスの時間が短くて事務連絡と気になる親子の支援を深めることができない。そして、現在保育士資格を有している職員なので、カンファレンスの時の協議は深まりがあります。しかし、正規職員が1名なので事業の継続性と支援の継続性から考えると非常に難しいのではないかと。正職員が複数いれば、継続した支援や事業実施がスムーズになるのではないかと考えております。また、現在広場では未就園児対象、概ね0歳から3歳未満の方を対象におもちゃや環境の設定をしています。広場の利用対象者が就学前になるとおもちゃや環境の設定が難しく、また、感染予防の観点からも生後1ヵ月、2ヵ月等、早い段階からの利用者がいたりするので、妊婦の利用者がいたりする中、集団保育をして感染源にもなり得る。園児の利用はできるだけ避けたいので対象者を未就園児にしたらどうかと考えております。ただし園児の弟や妹の支援は1ヵ月以上途絶える心配があるため、幼稚園の夏休み期間中は就園児の利用できる曜日と時間を設定したいと考えております。等の課題が出ておりますので今後検討を考えております。

4ページ最後のページですけど、にこなん1日の大まかな流れを載せております。8時から17時15分までを載せております。そして職員体制、さきほど言いましたけれども所長1名、嘱託職員。保育士、正職員1名。保育士、再任用職員1名。看護師、嘱託職員1名。保育士、臨時職員6名、現在1名欠員となっております。保育士のパート2名と12名体制ですけども11名で行っております。以上、簡単ですけどもにこなんの7月8月の利用者報告と現在の課題事項についてご報告させていただきます。

○北村総務課長

ありがとうございました。それではご意見等ございませんでしょうか。

○清藤市長

3ページの人数を書いているところ、目標というか2208人プラス1949人プラス800人と書いてあるけど、この800というのはなに？

○前川こども課長

今後の月の利用予想人数です。

○清藤市長

この1ページの真ん中の出張広場の人数があるけど、これは7・8月の出張広場で、これが3ページの子育て支援センター、これが4・5・6月。3ページの4・5・6、1ページの7・8が連なっているけど、1ページの144というのはどこにいった？

○前川こども課長

その144と上段の2064を足して2208。

○清藤市長

はい。わかりました。それと、課題とかこれでよいというかこういうことが課題？他ないんですか？せっかくです、なにか課題があるのでしたら遠慮なく言ってもらったほうが良いですけど。

○高橋にこなん所長

7月から9月までの3ヵ月実施させていただきましたが、ひとつあるとすれば出張広場ですね。今現在、午前と午後にふりわっていただいておりますが、出張広場の午後の部の利用が少ないという出張広場の地域によって人数も隔たりがありますが、出張広場を来年も継続的にしていくべきかどうかを検討課題かなと考えています。

ちなみに午後の出張広場は利用者が7月であのね広場が児童数が1名、吉川のあつたか広場が1名の7月は2名でした。8月につきましては赤岡のつながれ広場で2名、保護者もいますので大人もいますと4名ですけども、子どもの数で数えますとあのね広場が1名で、あつたか広場が1名で、8月の午後の出張広場の利用者数が4名です。先ほども9月の集計が出たばかりですが、9月の児童数、にこなんそのものの利用数ができたばかりで間に合いませんでしたけれども、9月の児童数が661、保護者数が637のうち男性が、男性といってもカッコ書きの男性は父親の数です。おじいちゃんたちも中には入れてくださってますが、おじいちゃんの数を入れてないです。のべ28名で9月は1297、7月とほぼ同じくらいの人数となっております。出張広場含めると1416名となっております。3ヵ月をトータルいたしますと、児童数が1724、保護者数が1637、父親が73、累計数が3361で、出張広場を含めると3624名の方が利用しています。出張広場のところの人数は出ております。9月は出張広場の人数も増えておりますが、午後の出張広場の利用数が少ないのが現状で、せんだっても県の児童家庭課から、研修で先生においでいただいて、指導しました中で、大きな支援センターとか車がないのにこなんにはいけないような方もいらっしやるかもしれないので、出張広場として、保護者がどうしても時に逃げ道のようなそのような場所を用意しておくことが大事ではないかというご意見をいただきました。ですので出張広場があるのはある意味有効というか、しんどいお母さんたち、あるいは足がない、近くじゃないと行けないような人にはいいと思いますが、その部分をもっとどのようにしたらよいか検討をしていかなければならないと。後はもう述べているとおり、未就園児にしても解消してほしいこと、正規の職員、保育士が1名しかおりませんのでそのところをなんとかお願いしたい。永年的な継続の事業として、もっと何か取り組むことはないかと考えております。それから今利用して下さっている子どもさんの年齢層ですが、いわゆる今年3歳児、保育入っていれば、幼稚園入っていれば3歳児になる方が8名、2歳児が37名、1歳児が41名、0歳児が99名で、マイナス0歳児いわゆる今年の4月ではまだ0歳のクラスには入れない、そのような子どもさんが31名で216人となっておりますが、香南市内の利用者が210、香南市外の方、高知市や南国市・香美市、香南市外の方が88名ほどです。以上です。

○清藤市長

対象者って未就園児？

○前川こども課長

条例では就学前。にこなんでやっている事業としては主に、主としてということで3歳児。

○清藤市長

それはもう3歳未満にしたいと。

○高橋にこなん所長

就園しているお子さんにつきましては、就園されている保育所で支援がなされていると考えます。家庭でいるどこにも所属していないお子さんの相談で、親子を支援していくというのが支援センターの役割かなと思っております。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

○山本委員

未就園児を対象としているけれども、未就園児じゃなくて就園児が入っているということですか？

○高橋にこなん所長

未就園児が受け入れてもらえないんでしょうかとか、間違えてというか、その両方として。未就学となっていますのでそちらを見ましたとかそんな感じで。夏休みの幼稚園の長期の休暇中には支援が途絶えてしまう子がいるので、幼稚園との連携が1ヵ月半ほど支援が途絶えることは気になる、家庭には子どもさんには支援が途絶えることが怖いので、あの幼稚園児のお子さんの来れる日を設けてみたんです。週1回ですけれども。香南市内の幼稚園に就園していても、この曜日のこの時間帯なら来れますよという、夏休み入ってから7月20日過ぎたら、8月いっぱい。

○清藤市長

ちょっと数字とあれがみように頭に入っていないけれども、これは検討課題で、こども課の方でいろいろ検討いただいたらと思います。

○北村総務課長

この職員体制というのは、こども課で検討しているという事でいいですか？

○前川こども課長

検討させていただきたいと思います。

○北村総務課長

ほかにございますでしょうか？

○百田委員

人数的には結構、使ってくださっていて、駐車場が40台弱で大丈夫かなと。一斉に来るのでは

なくてバラバラに来るので今のところは大丈夫ということやけど、今後もっと利用があった時とか子育ての講演会とかにあそこの駐車場で大丈夫かなと心配してます。それとまだまだ知らない人がいるようで、乳幼児健診とか広報とかホームページなんかでも周知をされているところだと思いますけれども、もっと回数を多くしてあげたらよいです。それと一点。養護児保育。前々から心配していた点が結局預けようと思っても、ダメな期間、その期間過ぎたら保育・幼稚も OK になるんですよね。例えば2針くらい縫って抜糸するまではおれません。養護児保育もいけませんみたいな感じで、それはそう決まっているんですかね？

○前川こども課長

診療情報提供というか医師のこなんの受け入れの基準というものをお示ししておりますので、それにあてはまるかあてはまらないかということ、医師の承諾をへて、医師に書いていただいてそれがあれば受け入れることができると。怪我とかというのはそれでかまいませんけれども、熱とか診療所で書いていただいても当日の熱の38度以上出ていたらその時はお断りすると。

○百田委員

病後児預けようと思ったら、ある程度よくなったら、保育・幼稚からはある程度 OK はもらえる？

○前川こども課長

行かせれるけども、ちょっと不安という時に。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか？

○中元委員

病後児保育についてお伺いしたいんですけども。香南市としても初めて取り組んだことなのですが、診療所関係等も含めて、やるにあたって困ったこととかやりにくかったというようなのはないですか？

○高橋にこなん所長

実はですね、利用申請がでますが、登録がまずできていない。登録書が出たときにそこのご家庭が課税世帯かどうかはまず1点あります。いざ利用する時に利用申請書が出ます。そしたら利用申請書にたいして、市長印と決定通知書を出さないといけないんですよ。1日だけ利用される方がいたとしたら、その日のうちに調査に判をいただいた調定を上げたりとか、そういうことがありましたので、子どもさんもお子さんも状態が悪くならず機嫌よく帰っていただいて、保護者さんにもよかったです。きっと今から先、病後児保育、ちょっとずつ浸透していければ利用してくる方も増えていくと思うんですけど、その手続き云々で躓きが無いように。それから看護師が週4日勤務していて、翌日が休みの日だったのが急遽頼んでもらって。

○清藤市長

一回、最初あの開式というか記念のあれはケーブルテレビでもやったんだけど、その後の活動投稿とかインタビュー形式でもらうとか、そんなのありましたか？ないやったらやってもらえますか。

○高橋にこなん所長

12月にケーブルテレビの放送があります。

○清藤市長

そうですね。そういうのやったらまた色々知られるし。

それとまた木のおもちやどうこうがあったけど、私、一般社団法人森と緑の会の副理事長をやっているんですけど、それで色々また木のおもちやがあるんですよ。それって何かいりますかね。色んな木のおもちやが。そういうのつくって配布しなければいかんですか？県が森林環境税ってもらっているでしょう。それを有効に使ったという報告を議会にせんといかんけど、いりますかね？まあおもちやの種類にもよりますけれども。

○高橋にこなん所長

検討してみます。

○清藤市長

それはまた、前川会長と。にこなんだけじゃなくて、他の香南市の保育でも幼稚でもそういうことになってくると。どっか入る先を探してほしいという感じなんですよ。ちょっと打ち合わせをまた。

○北村総務課長

議事についてはそれでよろしいでしょうか。それでは次の議事に移らせていただきます。生涯学習課の方で説明をお願いします。

○国松生涯学習課長補佐

生涯学習課の方ですが、様々な分野でまだ係があります。その中で今年度力を入れて取り組み始めたという部分において、マリンスポーツというものがありますので、今回ご報告させていただきます。そもそも香南市マリンスポーツ振興計画という計画がございまして、現在の計画につきましては2013年6月に策定をされている状況です。そのテーマにつきましては、いつでも誰でも、色々楽しめるマリンスポーツの町香南というテーマに沿って、またその目的に関しては、誰もが生涯、障害のある方でも男女、高齢者の方でもという意味で、生涯香南市の土地で、海で、マリンスポーツを楽しむ環境づくりを推進するということを第一の目的としております。

また自然環境等の保全であるとか、その持続性の活用、そういったところも目的になっております。その他にも2つ目的がありまして、マリンスポーツの振興という部分と、あと香南市のブランドイメージとして、マリンスポーツの町というところでブランド化をはかる。それにもなって交流人口の増大をはかっていく。よってそれが地域経済活性化の一翼を担うというところの計画に位置づけているところでございます。

その計画につきましては2013年6月策定ということで、5カ年計画でありましたが、もうすでに切れております。どうして切れてすぐに第3条を作っていないのかということについては、平成29年度に下に※印で書いておりますが、ヤシイパーク推進協議会、これは現在の名前になりますが、ヤシイパークそれを含めて事業計画、県を巻き込んだ形で、地域の活性化をはかっていこうという会を設けました。その会の中でマリンスポーツに関しましても、位置づけとして担える所があるんじゃないかというところで、第二次計画の中ではなかなか議論できなかった部分でありますとか、それからその計画において、大きな変更が生じる可能性がありましたので、だいたいの方向性が定まってからの第3次計画の作成というものを目指しております。あらかじめその方向性というのが決まりましたので、令和元年度、今年度に策定委員会を立ち上げまして、年度内の策定を目指していこうと考えています。テーマや目的は踏襲する予定ではございますが、やはり香南市のマリンスポーツを進めていくうえでは、海であったりヤシイパークの海が欠かせません。ですので、そういうところを中心に進めていきたいと、できるだけ多くの計画、色んな視点から盛り込んでいきたいという風に思っております。そのマリンスポーツの現行の計画につきましては、2枚目のところに簡易版というところでテーマ、それからそれに沿った取り組みなどを示してございますのでご覧いただきたいです。資料の裏面には香南市マリンスポーツ施設の代用であったり、それから香南市のマリンスポーツ施設の指定管理し続けているところが、NPO法人海の駅クラブになるんですけど、体験メニューであったり、イベント等を掲載してございます。そんなところを含めて計画策定にあたりたいと考えております。

一枚目の資料に戻りまして、その計画に基づく形で県なども含めましてヤ・シイパーク推進協議会ですが、その会の中でマリン体験というものをヤ・シイパークの海、あのエリアでできないかという声が、意見がありました。そのためにいつでも誰でもという部分では、来場者の非常に多いヤ・シイパークでありますので、そちらのほうでサップというサーフボードみたいなものに立ち上がって、パドルを持って進んでいくという新たなスポーツがございまして、そちらの方が日本でも流行っておりますので、そのサップとハンザクラスというヨット、それは障害者でも乗れる小型ヨットでございまして。そちらに体験ができるように方向性を示しまして、また運営に関しては、NPO法人海の駅クラブを主体に行えないか検討いたしました。本年度からマリン体験事業を行うという部分で昨年度からですね、環境整備と運営体制の構築に着手してきたところです。

その下に書いてますマリン体験事業の実施という部分で①環境整備という部分を書いておりますが、リュックサック等の購入他という風に書いています。繰り返しになりますが、全国的に流行の兆候があります。県下の施設でも導入が進んでいますけど、なかなか個人のスポーツという認識で大型サップというものの導入は他の地域では見られておりません。また個人でもなかなか買えるものではありません。ですのでヤ・シイパーク、海の駅としましても家族や団体のニーズに応じて、将来性を高めたいという位置づけでサップの導入等を県の補助金を使いまして購入いたしました。昨年度、高知県観光拠点等整備事業費補助金というもので約200万円の事業費、2分の1が県費で補助金としていただいております。それを使いまして、サップ10艇、パドル20本、それから収納棚等を購入しました。またヤ・シイパークのあるところは県立の公園でございまして。県のほうから株式会社ヤ・シイで指定を受けているんですけど、その中でヤ・シイパークの西側にあります倉庫、そちらの方をひとつマリン体験用の基地にしようというところで開放いただいております。協定等を結んだうえでのことなんですけど、その中でサップやヨットの他、それから受付用のテーブルや椅子、パーテーション等を購入して、それを用いて更衣室の設置など環境整備を行いました。

また人員体制のほうなんです、②の運営体制の構築というところで地域おこし協力隊の雇用をしております。実際香南市内の中でも十数名の隊員さんがいるんですけども、教育委員会初となる隊員でございまして香川県出身でタカハシコウヘイくんという23才の若者です。6月から地域おこし協力隊として来ております。勤務時間につきましてはマリンドライブというので土日、一番のかきいれどき、皆さんが休みの時に対応するよう勤務形態を木曜から日曜日という風に勤務日を設定しまして、そのうえで一回こちらに朝寄りまして事務連絡等をしたうえで海の駅、ヤ・シイパークの方で対応にあたっている状況です。隊員の仕事としましては、そういった事務関連の効果的な情報発信、プロモーション活動、そういったところの提案、実行部分をお願いしております。また環境整備、隊員の雇用以外に周知の部分につきまして、自分たちも含めて努力をしているところです。ヤ・シイパークでマリンドライブができますよということで、最後から2枚目の資料になりますが、サップ体験ができますというチラシを作成いたしました。これは隊員の勤務日にあわす形で木曜日から日曜日にヤ・シイパークでできます。2時間くらいの予定の中で一人3500円の料金をいただきながら、また有料駐車場の利用者には無料券を渡してということで対応を行っております。裏面のほうを見ていただきますと、地域の活性化でありたいとかいう部分がありますのでヤ・シイパークの中にありますショップとか、バーベキューとかミニキャンプができる体制をとっておりますので、それとともにマリンスポーツというところでご紹介をしております。このチラシにつきましては県内の観光施設、それから県、近隣の宿泊施設、行政等全部で70ヶ所くらいに何度か発送したというところです。そういったことをしております。

またそれだけではなくて、ヤ・シイパークの入り口、国道から突き当りのところに看板等を設置いたしました。飛び込みで来られてそれをきっかけにという、体験するための始まりというのは身構えるよりはその場の思い付きでやったほうが大変効果的であると思いましたので、まずそういったところでの看板設置も進めております。それに関しては最後の端の資料を見ていただきたいのですが、ヤ・シイパーク西側におけるスポーツ体験実施報告ということで体験事業につきましては7月12日が一番最初のお客様になります。愛媛県からの方でじゃらんという旅行の総合サイトがあるんですが、そちらの方にPRをかねてそちらの方に申し込んでいる体制をとっていますので、そういう申し込み、チラシとかを見てというところで、今現在まで全部で25件、トータル64名の方の利用が確定しております。この中を分析するにあたってファミリー層の関心が非常に高いという事が見受けられます。またチラシや看板の効果も出始めております。一時は県外のお客さんはホームページを見てという方がいらっしゃったんですけど、最近はチラシの効果で県内の利用者、市内の業者も見受けられるようになりました。また近隣の方、リピーターにも充分なり得ますし、海の駅の隊員さんにもつなげていくことが可能かなということで期待しているところでございます。

ただどうしてもマリンスポーツといいますと、あたたかい夏場のイメージというところがありまして、正直9月の中旬以降ですね、体験までということまでなかなかできていない状態です。体制としては2名体制で安全等も確認し、PRとかも11月ごろまでできるという扱い方をしているにも関わらず、連絡がないような状態ですので、そのところ、シーズンオフにかけてをどうするかというところが今後の課題として上がっております。

その下のところに誰と、どこからとか申し込み方法につきましては件数に合わせての割合を書いていますので、またご覧いただきたいと思っております。

また、そのマリンドライブ事業で使う冊子なんです、その紙の裏面に10艇のサップの内容などを示しております。これだけ県の補助金を活用して買ったものになりますが、8人乗りのサップ、写真

で言いますと左上の部分になりますが、かなり空気を入れて大きな船みたいな状況にはなるんですけど複数、団体用には非常に好評となっています。それから真ん中の写真を見ていただきますと、先ほど説明した大型サップ8人乗りが真ん中の段にしまってる分です、その下が小さめの4人乗り、一番上にある赤いラインが入った部分が縦列で4名乗る幅の狭い競技用というかスピードのかなり出る4人用のサップになります。そういったところで色々なイベントができるんじゃないかというところなんです。それ以外にもこども用サップであったりとか、一人乗りの部分でサップを7艇用意しております。他の写真につきましては実際体験しているところであったり、設置している看板とかを写真に含めております。またサップだけでなく、ハンザクラスという小型のヨットなんですけど、それが浜辺から乗船できる形をとりたいてと考えておまして、今仮設で沖合に抜けての渡れる梯子といいますか、棧橋みたいなものを発注かけようとしているところがございます。それによって冬場でありましても、濡れずにヨットに乗り込むことができてこの穏やかな大気の中で楽しんでいただくことができるんじゃないかと思っています。

最後になりましたが、今後の展望というところでご説明をしておきたいと思っております。今まで体験してきた方とお話したりというところで、やはり魅力あるものには関心が高いという部分があります。特に最近SNSとかいうところで写真を非常に撮ったり、異次元の世界観というところを求めるお客さんが多いので、単に体験だけでなくその様子をサービスとして写真に収めてあげるとか、その体験が終わった後にちょっとしたコーヒーを提供するとかいうところで単にパッケージだけでなくスタッフも含めた形で好感の持てる体験事業に育てていきたいと考えております。なお、キャンパーさんと、ヤ・シイパークをキャンプ地にしようという考え方もございます。その中で実証実験というのを11月2日から4日に行うようです、キャンプに来られた方についてもアクティビティのひとつとしてサイクリングかマリン体験かというところで売り出していきたいと思っております。そうやって参加された方は情報発信をしてくれる方が多いのでそういうところでのPRも期待しているところです。地域おこし協力隊員につきましては、最大3年間ということで雇用を計画しております。夏場は確かに体験事業で現場に詰めることが多いのですが、冬場につきましてはそうもいかない部分がありますので来年度に向けた取り組み、それからそのための準備というものをさせていただこうとも思っていますし、今年度に関しては第3次計画の策定にも参画させていただこうと予定しております。第3次計画もまだできておりませんが、親しむきっかけをつくるというところで新たな形を、ヤ・シイパークも含めた形で、マリンパークの基地として整備、計画立てて行っていきます。

まだもうひとつ紹介してない資料がございます。3枚目のところになりますが、時期的なもの、利用者数、そういったものをまとめたのがこちらの紙になりますのでまたご参考に見ていただきたいと思っております。説明は以上です。

○北村総務課長

ありがとうございます。それではこのことについてご意見・ご質問等ございますでしょうか。

○清藤市長

サップの大会を来年の10月ごろにしたらどうか。プレ大会を5月にやった後、令和3年度で県にサップをもっと購入してくれと。シーズンオフの10月に大会をやって、そのプレイイベントというか実証実験みたいなものを来年の5月に。実は今までにもそういう人がいて、海の駅クラブにサ

ップを振興しようという目的で入った人がいる。ただ自分達や丸岡さんはマリンスポーツはヨットもシーカヤックもサップもジェットスキーも何でもかまわないと思っているが、海の駅クラブでヨットをする人は他のマリンスポーツをあまり好まない。前にヤ・シイパークでサップの大会をやったこともあるけど、なんだかんだいって1回でしなくなった経緯がある。それが7～8年前。それからまたサップのブームがまたこうくるようになったので。言ったらこの高橋くんが地域おこし協力隊で、海の駅クラブだけで相談してやってもなかなか難しいというところがあるので、そこはこっちもツテを探すけれども、だいたいはサップを分かっていると思うので。サップの協会みたいなものはある？

○国松生涯学習課長補佐
ないです、販売店の方に。

○清藤市長
そう、販売店の方に聞いてよね。来年ぜひやったら。

○国松生涯学習課長補佐
実際サップの人気は大きくて、奈半利町なんかでもし始めました。他にも須崎であったり西武の方でも行っています。早明浦ダムの方でも行ったりしていますが、なかなか空港にも駅にも近くて手ぶらできてすぐ乗れるとなるとヤ・シイのほうが優位であると。

○清藤市長
なので、イベントを。

○国松生涯学習課長補佐
イベントも計画に盛り込んで。

○清藤市長
海の駅クラブだけにまかせてもなかなかのところがある。言うようにヨットの好きな人は他をやら

○国松生涯学習課長補佐
あくまできっかけですので、メニューを変えてもかまいません。要は夜須をベースに親しみを感じてくれる人を増やすと。

○清藤市長
そう。自分達はヨットもサポートと思うけど、そこは微妙な心模様があるのでそこだけ気を付けてもらって。

○北村総務課長
ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

○山本委員

この夜須ですけど、ヤ・シイパークは色々な楽しめるところがあっいいんですけど、私もじゃらんとか使って体験型の観光が好きな者から言うと、遊びとか食事所とかホテル、これがワンセットなんです。現在お客さん結構いるんですけどどこに泊まるんですか。黒潮ホテルですか。

○国松生涯学習課長補佐

宿泊先までは聞いてないです。県外からですのでホテルの方が多いと思います。中にはキャンプ、テントを張ってという方もいると思います。今、ヤ・シイの協議会の中で話しているのが、キャンプサイドをヤ・シイの中に作って、その中で泊まっていたくけれど、時間帯の中でこういう遊び方もできますよという提示もしていきたいですし、今夜須の方でサイクリングも考えております。ですので協力隊員同士で同じコラボのイベントができないかというかそういう話もされているようですので、色んなところで相乗効果が出る話を考えていきたいと思います。ちなみに近隣のホテルについては、こういうチラシを配って誘導を。チラシを置かせてもらっています。

○清藤市長

現実的には宿泊ホテルは高知市内のホテルが圧倒的に多いです。それを何とかこっちへと思うけど。

○山本委員

プラス食事なんですけど。ヤ・シイパークも夜もお店が出ているんですけど。例えば土佐和紙工芸村プラウドを利用させてもらったんですけども、あそこは手すきと手織りの体験プラス仁淀川カヌーがあって、それにホテルで薬油の温泉があって、あと創作フレンチ料理を食べれるという結構外国の方がたくさん来ています。その人たちがネットで情報を知ってスケジュールをいかに楽しむかということでは、色んな情報が入っていくといいと思います。ホテル業界を含め、さっき言ったサイクリングのご紹介とか色々楽しめますよというエリアが夜須という風に宣伝するのはすごく効果的かと思います。

○国松生涯学習課長補佐

そうですね。実際パンフにはバーベキューのご案内とか、セットでしているところがございます。ただ、自分達としては生涯学習課の部分ですので、関連したところには伝えますけど、主体的なところはなかなかできないところがありますので、意見としては一緒に共同してやっているところです。

○清藤委員

ヤ・シイパークのキャンプのバーベキュー、あそこは駐車場が割と早く閉まる。夏場でも18時には閉まってね。それがネックになってなかなか人が来ないのでは。

○国松生涯学習課長補佐

そこは課題として、会の中でそういう話も検討しています。

○北村総務課長

よろしいでしょうか。そしたらこの議事につきましては終わりにしたいと思います。以上で個別に準備してました3つの議事が終了しました。次第でその他を準備してますが、事務局の方では特にございませぬ。なにか委員さんの方でございませぬでしょうか。

○清藤委員

ちょっとかまいません。生涯学習課の方に。西佐古のテニス場、あそこの利用率はどんなになっていませぬ？やってる人を見たことないけど。

○国松生涯学習課長補佐

定期的な利用に関しては、スポ少とかの団体の方が昼間に使用はされてませぬ。フットサルについても、屋外というところもあるんですけど他と比べたら安いようなイメージもあるようでして、使っはくれていませぬ。あと道が狭かったりという部分もありますし、これから春先までは結構風が吹く土地柄でもありますので、そこのところはまた下がる可能性はありますけど。

○清藤委員

今までテニスやりよった人はいいけど、新たな人は場所を知らぬ。

○国松生涯学習課長補佐

また、周知の方もするように考えませぬ。

○北村総務課長

他にございませぬでしょうか。

○清藤市長

ひとつあの、山下次長は昨日夜須町のまちづくり協議会と市長とのふらっと座談会に出てたんで知ってませぬけれども、その保幼小中の津波が来た時の避難場所うんぬんで、市としたら保育と幼稚を認定こども園として津波がこないところへという事で今後取り組んでいくという。それで元の保幼小中の今の津波避難場所は屋外になるけれども、そこに何もないと。野原、野山なのでこれは今までも保護者・関係者からも意見があつたので昨日も検討中ということだったけど、もう検討中だけでは許されぬところがあるから。昨日も会が終わつた後、色々悪気があつて言っているわけはぬいけど声としてかなりあつたのよ。無為無策じゃないかと。何をしていると。だから色んなことを計画も立てて、保育・幼稚は高台で別のところだから園児が避難するところにはならぬいけれども、小中学生になるけれども、そしたら備蓄品なんかは小中学校の3階にあるわね。けれども、避難場所というのがあるから、これ避難場所にもなつていないで終わつてるわね。教育委員会も防災対策課のほうも。なんでなつてないかと聞くとせないかんからとか。実際野原が避難場所になつていぬから、これは太陽光発電するとか備蓄倉庫とか必要やつたら何かせないかんし、迂回してつきみ山の方へ行くのであればそれを示さないかんし。そこに行くまでの間が土砂災害特別警戒区域になつていぬのであればそれはいかんだろうし。それを検討するような状況ではないので、何年も

同じようになっているから。保護者にとってみたら避難場所が山の上、真冬で電気もない、何もなしこれどうなっていると聞いたときに検討中だと、それで3年過ぎたからちょっといかんです。

それを教育委員会としても、防災対策だから教育委員会だけでは難しいのであれば防災対策課も含めて考えていかないと。そこは来年度に向けてある程度の目途を。そこはぜひ。

○清藤委員

避難場所の件で幼稚と保育がこっちに来るのだったら小学校も中学校も高速道路の方へ避難場所を変えたほうがいいのではないかと。距離的にはそんなに違わないし。上のグラウンドのトイレも使えるし。

○入野教育長

今までは幼稚があるということだった。幼稚がなくなったら、就学前のこどもというのは一定距離が長くなると、時間が命にかかわるといことで最も早く上がれるというところでグラウンドを今までやってきているのですが、それがなくなったら小中学生だったら視点が変わってくるわけです。そこも含めて検討して。

○清藤委員

グラウンド自体は前の坪井神社が避難場所への階段をつけるようにしてるけど、こないだの入札で工事受ける人がいなくて。

○清藤市長

そこはまたやります。

○百田委員

吉川小も、吉川の保育所もあそこまでは、避難タワーまでは、避難してそれから先のことは計画してない。そっちの方も含めてやっていかななくては。

○北村総務課長

教育委員会で検討のほうよろしくお願いします。それでは以上で終わりますが、次回の会でございますが、2月を目途に日程を調整させていただきたいと思っております。またよろしくお願ひいたします。それでは以上をもちまして第2回目の香南市総合教育会議を終わります。どうもお疲れ様でした。